

2020年10月実績概要（メモ）

（2020.11.19）

定修の継続や稼働要因から、エチレン及び各誘導品生産はほぼ全品目で前年割れ。

1. 生産動向

イ) エチレン 519,100トン

前月比 +6.2% (+30,300トン)
 前年同月比 ▲7.0% (▲39,300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+3.3%	-
定修要因等	▲0.9%	▲8.9%
能力増減	-	+0.1%
稼働率変動	+3.8%	+1.8%
生産増減率	+6.2%	▲7.0%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.0% → 当月96.1% ← 前年同月94.4%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

本年1～10月の累計生産量 4,869.4千トン、前年同期比▲8.1%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主に日数増加や定修規模の減少からLDPE、HDPE、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、AN、ベンゼンなどの9品目がプラス。PS、MMAモノマー、SBR、BRなどの8品目は定修規模差などからマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差などから、LDPE、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、キシレンなどの16品目がマイナス。アセトアルデヒド1品目のみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の増加とともにLDPEは定修系列数の減少、HDPEは稼働率要因からともにプラスとなった。PPは定修規模の増加、PSは稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、主に定修規模の差や稼働率要因から4樹脂揃ってマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、祝祭日の関係からのユーザー側の稼働日数の増加や国内産業の生産活動、消費動向の持ち直しの動きも相俟ってLDPE、HDPE、PPはプラス。PSは前月の出荷が多めであったこともあり、当月はマイナスとなった。

前年比では、前年が増税に伴う駆け込み需要的な要素もおさまり、国内出荷は落ち着きをみせた状況にあった。これに対し、当年はLDPE、HDPE、PPで前年を上回る出荷となった。分野別の出荷動向でも、PEではフィルム分野の出荷は前年を下回るも、LDPEでは暫く前年割れが続いていた加工紙分野がプラスに転じたほか、HDPEの中空成形分野、射出成形分野は引き続きプラスとなった。また、PPでは射出成形分野の出荷が前月に続いて前年を上回ることとなった。PSは雑貨・産業用をはじめ全分野で出荷が前年を下回り、マイナスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、中国等の生産活動の立ち直りもあり、引き続き増加基調で推移している。当月はLDPE、PSでプラス。PPはマイナスとなった。

前年比では、LDPEで大幅な増加となったのをはじめ、HDPE、PPでも増加が続いており、4樹脂ともにプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PP、PSで減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDPE、HDPE、PPで低下、PSは若干ながらの上昇となった。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PPは適正からタイト傾向、PSはほぼ適正水準で推移している。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		9月末	10月末
LDPE	▲11,700	3.2	3.0
HDPE	▲3,000	3.0	2.7
P P	▲33,700	2.7	2.4
P S	▲9,700	1.6	1.7